

薬学生を対象とした専門用語習得のレベル別対応の試み

○スミス 朋子¹, 天ヶ瀬 葉子², 野口 ジュディー³ (¹大阪薬大, ²同志社女大薬, ³武庫川女大薬)

【背景】専門英語教育 (ESP) の観点では, 低学年であっても英語教育に専門性の高い内容を取り入れて指導するべきであると考え, 発表者らは 2011 年より授業の改善や活性化のために学生アンケートを実施している. その一環として低学年の学生が英語学習をどのように位置づけ, また, どのような英語学習を求めているかニーズ分析を行った結果, 多くの学生が専門英語の学習, 特に専門語彙の習得の必要性を感じていることが分かった. 薬学系の学生にとって専門用語の指導が必須であるのは明らかであるが, 実際にどのような種類やレベルの単語を教えるべきかは明らかになっていない.

【方法】本研究では, 2013 年度後期に私立大学に在籍する薬学専攻 1・2 年次生, 約 130 名を対象に単語知識と学習作業に関する調査を実施した. 単語は, 一般的に用いられている平易な専門単語 (グループ 1), 一般にも用いられているが医療の場面では意味が変化する半専門用語 (グループ 2), 専門家の間で多く用いられる専門用語 (グループ 3) の 3 種類の単語を調査した. 調査協力者は, まず初めに例文中に含まれる 15 個の単語を辞書なしで意味を記入し (問 1), その後, 辞書を使って意味を調べて再度意味を記入した (問 2).

【結果】グループ 3 の単語は, 問 1 で多くの学生が「全く分からない」と空欄で解答したが, 辞書を使った問 2 では, ほぼ正確に解答できていた. 一方, グループ 1 でも正答率の悪い単語もあり, グループ 2 は, 既知の単語であっても基本的な意味とずれのある単語 (labor 陣痛) などは, 問 1・2 とともに誤った記述をする解答が多かった. 以上の結果から, グループ 1 と 2 の単語の指導の必要性和辞書の使い方や文脈にあった訳を考える指導の重要性も明らかになった.